

日本経済新聞

新聞 2025-6-19
信越 2025-6-20

創業家の女性と結婚して後を継いだ経営者が佐渡島（新潟県佐渡市）で語り合った。廃校の木造校舎を再利用した尾畑酒造（同）の「学校蔵」で14日に開かれた特別授業。10代から70代まで70人を超す生徒が、校訓にある「幸醸心（こうじょうしん）」を刺激された。

地域の風



廃校の教室を使った「学校蔵の特別授業」は11回目（14日、新潟県佐渡市）

「最初はお奥さんだけが唯一の味方」と振り返ったのは、出版業界から転じた尾畑酒造の平島健社長（60）。「異なる価値観などが混ざると強くなる。ウチは次もムコです」と長女の夫が入社したことも紹介した。

2014年に始まった学校蔵の特別授業は、平島社長夫妻が創業家に生み出した尾畑留美子専務（59）が、ほぼポケット

と笑う。実際に県立佐渡高校生の北見結愛さん（17）は、自分の言葉で語る講師をみて「自分も物事をよく考えて、アウトラットできるようにしたい」と感じたという。

第1回から講師を務める日本総合研究所の藻谷浩介主席研究員（61）は「人間が混ざって面白いことが起きるのが学校蔵。例年は半分くらいは初参加が6割を超えたのがうれしい」と喜んだ。

ムコ経営者、佐渡で語る

役割がある。外から来たクラフトビールが中核だ。マナーで開催してきた。クラフトビールが中核だ。マナーで開催してきた。クラフトビールが中核だ。マナーで開催してきた。

「日本が一番夕日がきれいな小学校」と評判だった旧西三川小にできた学校蔵。校庭には2010年まで136年の歴史があったことを伝える記念碑が残る。夏草が覆う背面に刻まれた校歌の1番、2番は「平和日本をつくるのだ」「文化日本をきずくのだ」と結ばれていた。離島の片隅の大きな志は学校蔵に継承されている。（天野豊文）